

第2学年 DIG 訓練を実施しました

令和2年1月9日(木)に第2学年の DIG 訓練を実施しました。今回は「横浜市中区区民マップ」を使い、「夕刻、横浜中華街を観光中に震度6強の地震に遭遇したため、安全な場所まで避難する。」という想定で行いました。



各クラス5名ずつ8班に分かれ、それぞれの班で安全な避難方法、場所を考察しました。訓練ではまず前半に、横浜中華街の場所を地図上で確認後に赤でマークし、①学校・広場・公園などの大きな場所をピンク、海、河川、水路など水のある場所を青でマークする、②食料、薬などを売っている場所に緑の付箋、水を確保できそうなところに青の付箋、病院など医療を受けられる場所に黄色の付箋を貼る、③配付されたマップと「わが家の地震対策」をスマホで検索し、それらのマップを参考に、災害時に危険だと思われる箇所を赤ペンで囲むという手順で地図に災害に役立つデータを加える作業を行いました。

後半は、完成した地図をもとに①地理的特徴を箇条書きする、②大地震発生後の避難ルートについて、各グループで検討し、まとめ用紙に記入しました。



「元町中華街周辺の地理的特徴」(「DIG訓練まとめ用紙」回答を一部抜粋)

- ・ 山と運河に挟まれた平地部分を中心に、元町商店街が形成されている。
- ・ 町域の南・東側は山手丘陵地と隣接し、北側は堀川を挟んで山下町と隣接している。
- ・ 海が近く、津波の危険性が高い。
- ・ 公園、学校が多い。
- ・ 建物が密集している。
- ・ 交通機関が充実している。
- ・ スタジアムが近い。
- ・ 埋立地が多く、液状化危険度が沿岸部ほど高い。
- ・ 南側は急傾斜崩壊危険区域が集中している。
- ・ 元町中華街駅の南側は、津波浸水マップの色がついていない。→土地が高く、山になっている。
- ・ 栄えているので、避難場所である学校や食料品を確保できる場所が豊富にある。
- ・ 病院などの医療サービスを受けられる場所は右側に集中している。
- ・ 水の確保ができる池などは点々としている。
- ・ 土地の高低差が大きい。



「各グループで検討した避難場所とその理由」(「DIG訓練まとめ用紙」回答を一部抜粋)

- ・ 野毛山公園:元町中華街から遠すぎず、広域避難区域だから。
- ・ 港の見える丘公園:元町中華街の近くにあり、標高が高いから。敷地が広く、安全そうだから。
- ・ 根岸台:敷地が広く、海からは遠く、高台という感じがしたから。
- ・ 根岸森林公園:海から離れており、広くてたくさんの方が避難できるから。病院と水(プール?)が近いから。
- ・ 横浜スタジアム:敷地が広いから。大きくて頑丈そうだから。
- ・ 山手公園:海から遠く、中央にあるため。保育園や病院が近くに多くあるため。
- ・ 駅に待機:駅周辺は危険なので、静かに助けを待つ。
- ・ 本牧山頂公園:山なので高いから。
- ・ 横浜公園:敷地が広く、近くにコンビニがあるため。
- ・ 近隣の小・中・高等学校・各種学校:建物が災害に強い構造で、災害のための防災グッズ・備蓄品があるから。

大災害発生時に自宅周辺ではなく、繁華街にいる可能性も十分に考えられます。そのような場合にどのような行動を取ればよいのかを瞬時に判断するためには、その場所にどのような施設があったり、特徴があるのかを把握しておくことが重要になります。

生徒からは「今回のDIG訓練を受けてみて、普段町のどこが危ないかなどをしっかりと理解することができたので、とても良い経験となりました。」「これからは中華街に行った時、避難場所を意識してみようと思いました。」などの声が聞かれました。

今回のDIG訓練では下記の素材を使用させて頂きました。

1. 地図： 「中区区民生活マップ」(発行:横浜市中区区役所区政推進課広報相談係)
2. 参考資料:「わが家の地震対策 横浜市～中区版～」(発行:横浜市総務局危機管理室危機管理課)

